

研究所ニュース No.58

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



「公益社団法人」移行記念のつどい 記念写真（ホテルレガロ福岡）

（公社）福岡県人権研究所 第一回通常総会・記念講演会 「公益社団法人」移行記念のつどいを開催

二〇一三年五月一九日（日）／ホテルレガロ福岡

公益社団法人移行後初の通常総会と記念講演会、そして「公益社団法人」移行を記念したつどいがホテルレガロ福岡で開催された。通常総会と記念講演会には約五〇名、終了後のつどいには来賓を含めて約四〇名が出席して福岡県人権研究所の「公益社団法人」移行を祝った。

通常総会では、はじめに、研究所の森山沾一理事長が公益社団法人に移行したことに対する決意や関係者への感謝を述べたあと、福岡県教育庁人権・同和教育課の有光洋参事、福岡県人権・同和対策局調整課の森部広道企画監、福岡市市民局人権推進課の大庭浩之係長が来賓として紹介され、代表して有光洋参事から挨拶をいただいた。

審議に入り会員の宮脇繁紀さんが議長に選出され、二〇一二年度事業報告（案）を松尾祐作所長と加藤陽一運営委員長が、決算報告（案）を堀内忠副理事長が提案、監査結果を奥野淳子監事が報告した後、議案は提案どおり承認された。続いて二〇一三年度事業計画（案）、二〇一三年度予算（案）、二〇一三年度役員・監事（案）も満場一致で承認された。

(記念講演会)

総会後は、大阪市立大学教授の阿久澤麻理子さんが、「各地の人権意識調査の結果から見えること」部落問題を中心に」と題した記念講演を行った。阿久澤さんは、教員対象に行った「人権って何だと思えますか」という問いについての結果を紹介し、「思いやり、優しさ、いたわり」であるとの回答が最も多かったことを述べた。さらに、「貴方はどんな権利をもっていますか」という問いには「自由や平等」の他に「考えたことがないからわからない」という回答が多かったことにもふれた。阿久澤さんは「思いやりやいたわりは強者が弱者に対して持つ感情をはらんでいる。私たちはみな対等で、みな権利を持っていることを知る必要がある。権利を教えない人権教育



講演する阿久澤麻理子さん



会場風景

はあり得ないが、権利を学校で教えると、我が儘になるのではないかと思われがちである」と語った。また、二〇一一年の兵庫県における住民意識調査から、「同和問題の解決に対する考え方」の回答に「そっとしておけば自然に無くなる」が二四・一%、「なりゆきにまかせる」が二七%であったことなども紹介し、人権啓発・教育の再構築の重要性を訴えた。

(「公益社団法人」移行記念のつどい)

講演会終了後、会場を移して行われた「公益社団法人」移行記念のつどいでは、はじめに部落解放同盟福岡県連合会委員長の組坂繁之さんからお祝いの言葉をいただき、乾杯のあと、元部落史研究会会長で前福岡県部落解

放・人権研究所理事長の川向秀武さんと福岡県人権施策推進懇話会会長の稲積謙次郎さん、研究所顧問の林力さんから研究所への思いを語っていただいた。

川向さんは、福岡教育大学在任中の一九七七年に福岡部落史研究会の会員になり、八六年から九七年の間、福岡部落史研究会会長、九九年に部落解放・人権研究所理事長に就任したことにふれ、福岡部落史研究会から福岡県部落解放・人権研究所、福岡県人権研究所の公益法人化への歩みを「ホップ・ステップ・ジャンプ」と表し、今後の研究所には、部落史研究の継承と、そこに立脚したグローバルな活動の創造に期待すると述べた。

次に挨拶した稲積謙次郎さんは、これからの研究所への期待として二つのことを語った。第一に、研究所としてウイングを広げることの意味を再確認し進化させる必要性がある。ウイングを広げることがはなから横たわることではなく、それぞれの人権課題に横たわる共通の構造を知ること。第二に官民協働を具現化するための役割を自覚し、得意分野を発展させることが重要であろうと話された。

最後に林力さんから、故井元麟之さんと故村越末男さんの思い出が紹介された。四〇数年前、井元さんが「研究所をつくらないかん」と言っていたこと、村越さんも福岡の研究所に大いに期待していたこと。お二人とも現在の研究所の活動を喜んでいるだろうと語った。

第一七三回定例研究会

(外国人部会・ジェンダー部会合同)

六月八日(土) 福岡県人権啓発情報センター

研究所主催の第一七三回定例研究会として、外国人部会を一三時三〇分から、ジェンダー部会を一五時三〇分から福岡県人権啓発情報センターで開催しました。

(第一部 外国人部会)

外国人部会では、「入管法改正後の外国人実習生問題」と題して、熊本市にあるコムスタニカ(外国人と共に生きる会)代表の中島真一郎さんにお話をいただきました。

コムスタカでは、在住外国人からの人権相談や社会啓発、自治体への政策提言などを行っており、昨年だけでも六〇件の相談に対応したとのことです。講演で中島さんは、過去相談を受けた外国人研修生・

実習生の事例や二〇一〇年七月に施行された新たな技能実習制度の概要、問題点などを話され



中島真一郎さん

ました。制度が変わっても外国人実習生は「技能実習」在留資格のもとで職業選択や居住移転の自由がないこと、日本では外国人を管理する法律はあっても、外国人を対象にした権利を保護する法律がないことなどを指摘されました。

(意見・感想/アンケートから)

○日本の労働問題や外国人施策について考えさせられました。日本という国がかかえる課題や矛盾を人権という視点から見ると高年齢化や今日の外国人労働者の問題は日本のそして自分の問題と直接つながっていることを感じる事ができました。

○実態と検証、政策課題と深く広くお話をしていただけでも勉強になりました。私も行政の中に外国人の方々の保護や共生をめざすセクションがないことに疑問を感じています。

○日本社会の見えにくい部分(技能実習生問題)という気がした。私にも見えていない。見ようとしていなかった部分なので勉強になった。

(第二部 ジェンダー部会)

ジェンダー部会では、当研究所理事の山田澄子さんに、ご自身のライフストーリーを交

えながら「日本における男女共同参画社会の現状と課題」というテーマでお話いただきました。人権に関わる条約や男女平等に関する法規定、世界における日本の男女平等の水準、久留米市の事例などを具体的なデータで分りやすく解説していただきました。今後の課題として、「啓発や知識の習得」から「課題解決型の実践活動」へ移行していくこと、仕事と家庭の両立支援、地域課題の複雑化に伴い多様な主体との連携の強化の必要性などが指摘されました。



山田澄子さん

(意見・感想/アンケートから)

○日本の共同参画の悲惨な現状(実)をさらに思い知りました。少し展望が見えるところまでもう少し継続して深めていく学習が必要ではないでしょうか。

○キャリアが築けない現実を実感しています。男女共同参画は男性、女性、両方の解放だと思えます。気付くこと、自己変革。また、同じく声を出し続けていきたいと思えます。

人権社会確立第三三回

全九州研究集会に参加して

関 儀久(会員)

第三三回全九州研究集会は、二〇一三年五月三〇日から三十一日の日程で、宮崎県のシーガイアにおいて開催されました。全国水平社九〇周年記念の大会です。私にとって初めての参加が、九〇周年の節目を迎えたこの大会であったことを光栄に感じております。



高山文彦さん

大会初日のシンポジウムは、森山沾一さんのコーディネートのもと、稲積謙次郎さん、高山文彦さん、中村久子さん、組坂繁之さんをコメントイターに迎えて開催されました。ジャーナリスト、作家、研究者、運動家と、立場の違いと手法の違いが鮮明に打ち出された議論に接することができました。

高山さんはまず、松本治一郎との出会いについて話されました。執筆の合間に神田古本屋街を散策した、とある古本屋で引き付けられるように一冊の書物と出会った、それが『松本治一郎伝』だった。かっこいい人だなあと思った。『水平記―松本治一郎と部落解放運動百年―』は、部落史を学ぶ人にとって、松本治一郎と出会うタイムマシーンになっていくと思えました。

次に、大阪市長の橋下徹氏をめぐる二つの

差別問題について言及されました。一つは、血脈に基づいて、人格を否定するという記事を掲載した週刊朝日差別記事問題です。この記事を書いた、佐野眞一氏は高山さんにとって夜遅くまで酒を酌み交わすなど親交ある作家の一人であり、その佐野氏が、差別する側として、差別の渦に絡めとられていったのは、「佐野氏の想像力の枯渇と墮落にほかならない。なぜ、人はああなってしまうのか。空しくなる」と、強い憤りを口にされました。

もう一つは、この問題に対する橋下徹氏の対応についてです。橋下氏は、「こういうこと(血脈主義による人格の否定)引用者注」を認めてしまうと、ひいては僕の子どもや孫にまで影響してくる」という発言を記者会見で行いました。高山さんは、この発言に注目して、橋下氏の差別に対する理解の本質的な問題がここに内包されていると意見されました。

私は高山さんの指摘を次のように受け止めています。それは、社会問題としての週刊朝日差別記事問題の重大性は、決して橋下氏個人の考えで片付けてよいものではないにもかかわらず、このことを橋下氏はまったく考慮することができないでいるという問題です。先述したように、橋下氏は、「僕の子どもや孫にまで影響してくる」と発言しています。このことは、週刊朝日による人権侵害の被害者が、橋下氏個人にとどまらず、ほかにも多数潜在することを、橋下氏自身が認めているこ

との証左です。にもかかわらず、橋下氏は朝日新聞の謝罪を単独で受け入れたばかりか、その後は、週刊朝日が橋下氏にとってなにか気に食わない記事を掲載すれば、半年前に許してやったのに、あいかわらずの人権侵害週刊誌だとツイートし、今度はいよいよ慰謝料を請求するというのです。結局のところ、橋下氏にとって週刊朝日差別記事問題は、橋下氏自身のその時々判断で許す・許さないが決定できるぐらいの重みでしかなかったというのでしよう。

大会二日目は、第四部会の「被差別部落の歴史と現在」に参加しました。

【報告一】飯屋睦男「歴史の授業に部落史をいかしたい」では、丹念な宮崎県の部落史掘り起こしの作業に裏打ちされた実践報告を聞くことができました。

【報告二】児玉裕紀「差別は、がんばればきつとなくなる」という考えになりました。一年間を通した部落史学習の実践から、の報告を聞いて、教科書の記述は変わったが、子どもの頃の教育経験のなかでビルド・インされた「士農工商」史観は、いまなお授業者の側を翻弄し「部落問題誤学習」のスパイラルを発生させる。このスパイラルと奮闘した成果の蓄積が、いまの部落史学習があるのだ、ということ教師として忘れないようにしようと思いました。

【報告三】竹永茂美「全九州水平社創立九〇周年記念誌を作成して」では、福岡県人権研究所で行った九〇周年記念誌の編纂過程で収集した史料を、史料解説のクイズを通じて紹介するとともに、松本治一郎・田中正月・井本麟之の肉声を紹介するなど、竹永さんならではのユニークな報告が行われました。隣席の女性が松本の声に目をつぶって耳を傾けていた姿がとても印象的でした。

私にとって初参加であった第三三回全九州研究集会は、刺激に満ちた貴重な学びの機会となりました。最後になりましたが、大会の企画・運営に関わられた方々、また報告を行って下さった方々に心より感謝を申し上げます。



会員の竹永茂美さん

図書紹介

『しあわせの種―病中閑ありー』

カパルドラゴンII (大崎龍二) 著

大崎龍二さん(香春町・会員)が病中に綴った

詩集『しあわせの種―病中閑ありー』を出版しました。巻頭では「厳しい

苦痛に喘ぐ日々。ある時は仲間や心ある方々からの笑いと元氣、そして勇気をわけてもらい、またある時は根こそぎ氣力を奪われるような日が続く、(中略)。私なりにたたかってきたささやかな自分への証として発刊を思い立った」とあります。「不幸や災いがおとずれる時同じ分量だけしあわせの種が背中あわせにくっついてんだってえ」(本文より)。葛藤しながら自分を見つめる言の葉から優しさや勇気が湧いてくる詩集です。



『俺たち団塊世代ちや』

内岡貞雄 著

北九州市の会員、内岡貞夫さんが北九州市自分史文学賞特別賞を受賞。同賞は、森鷗外が北九州市で過ごした時に作品を執筆したことになみ、一九九〇年から北九州市が作品を募集、大賞一点、佳作二点、特別賞一点が選ばれています。今年度は三五六

点の応募があり、内岡さんは団塊世代で高校教師として過ごした自分史や生徒とのふれあいなどを綴った受賞です。(受賞後出版)



柳原銀行記念資料館の紹介

柳原銀行記念資料館 山本 崇記

今回は全国人権資料・展示ネットワーク加盟団体の中から京都市の柳原銀行資料館について、同資料館の山本さんから紹介していただきました。

■新幹線から見える柳原銀行

新幹線（東京方面）から京都駅に入る直前に見えてくる崇仁地区は、非常に大きな地域です（二五六〇〇m²）。京都駅北口（烏丸中央）を降り京都タワーに面した東西の通り「塩小路通」を東側に一〇分ほど歩くと崇仁地区に入ります。さらに東に鴨川を渡ると、三十三間堂があります。多くの観光客を迎える京都の玄関口に面した塩小路通は、一九〇三年に、崇仁地区（柳原町）の住民が奔走し、開鑿にこぎ着けたものです。この崇仁地区内に柳原銀行記念資料館があります。かつて、



柳原銀行記念資料館（正面）

まちの南北を貫通する河原町通と塩小路通の交差点角に立地していた柳原銀行は、まちの中心に存在しました。現在は、住宅地区改良事業の一環で京町家の住宅展示場がオープンし、空き地の暫定活用も行われつつあります。

■地域の金融機関から人権資料展示施設へ

柳原銀行記念資料館は、京都市の人権資料展示施設として一九九七年に開館し、年間三〇〇〇人近くの来館者が見学や研修に訪れています。柳原銀行は、一八九九年、大蔵省より設立認可を受け、町長の明石民蔵を頭取に、地域金融機関として誕生しました。約三〇年間運営され、昭和初期の大恐慌で倒産に至りました。しか



資料館内

し、その後も、建物自体は皮革商店などに利用され、国道二四号線（河原町通）の拡幅工事のため、除却・解体の対象となった折、地元住民による保存運動が起こったのです。当時、部落史の見直し作業が進んでおり、柳原銀行の存在が再評価され始めていました。地元自治連合会と部落解放団体とが一緒にまち

づくり組織を立ち上げ、建物の保存運動が開始されるのです。一九九四年に京都市登録有形文化財に指定され、京都に現存する銀行建築では二番目に古い建物として評価を得、まちづくりのシンボルとして移築・保存に成功したのです。

■展示活動の内容

それまで「崇仁地区の文化遺産を守る会」の名で行われてきた調査研究活動が発展的に解消され、柳原銀行記念資料館が誕生しました。毎年、資料館としての研究調査の成果を形にする特別展を開催し、開館時から二四回を数えました。近世身分制の実態、穢多村の移転史、近代の社会事業・都市計画の具体像、融和運動・水平運動の再検討、さらに、崇仁教育や皮革産業の紹介、オールロマンス事件や在日コリアンとの関係史など、様々なテーマに取り組んできました。部落問題以外にも、ハンセン病、セクシユアルマインノリテイ、アイヌ民族などをテーマにした企画展を館独自の視点から実



施しています。

■誇りうる地域の歴史を発信

昨年度(第二四回)は、姉妹館であるツラッティ千本との共同特別展「京の公役を担った人々」を開催し、京都大学所蔵の「諸式留帳」や「余部文書」などを活用し、近世京都の刑警吏役、掃除役を担った人々の姿を、「誇りうるもの」という視点から紹介しました。実際に仕事場となった六角獄舎跡から西土手刑場をまわるフィールドワークにも多くの市民が参加しました。一昨年(第二三回)は、京都市歴史資料館より、柳原町が京都市に編入される際の町村引継文書をお借りして調査研究を進め、明治・大正期の柳原町の実相を紹介する「明石民蔵と家族の肖像」と題した特別展を実施しました。

■住民主導のまちづくりとともに歩む資料館

企画展(二〇一二年度)では、「営々たる崇仁のまちづくり」京都駅東かくあるべし、エリアマネジメント」と題し、崇仁地区のまちづくりの課題に直結したテーマに取り組みました。近世の村の移転からまちの開発、近代の銀行設立や学校建設、さらに、産業振興や都市計画などを広義の「まちづくり」と捉え直し、事業が立ち遅れている崇仁地区に新たに導入されようとしている「エリアマネジメント」という最新の手法との接点を見出す内

容です。近隣の学区からも多くの参加者を

得、まちづくりの中で生まれ、まちづくりとともに歩み続けています。資料館として、地域内外へその役割を発信しました。



企画展シンポジウム(2013年3月)

外へその役割を発信しました。

現にある被差別部落(同和地区)の課題に向き合いながら、その解決のために前進するまちづくりに寄り添い、歴史と記憶というアプローチから、より豊かな地域社会の形成の一端を担うのが柳原銀行記念資料館の役割であると考えています。差別の厳しい中において「おいでませ四方の人」と歌った玉置嘉之助(柳原尋常小学校校長)の精神に倣い、多くの方々の来館をお待ちしています。

■資料館概要

- ▽開館時間：午前十時～午後四時三〇分
- ▽休館日：月曜日、火曜日、祝日、休日、年末年始、展示替えの日。
- ▽入館料：無料
- ▽場所：京都市下京区下之町六三
- ▽URL：<http://suujin.org/yanagihara/>

お知らせ

○第三三回九州地区部落解放史研究集会

- ▽開催期間 二〇一三年七月二十六日～二十七日
- ▽会場 日田市商工会館 〇九七三二二二二一八四
- ▽参加費 一〇〇〇円(資料代含)
- ▽主催 九州地区部落解放史研究連絡協議会
- ▽内容 ①二六日(金)一〇時三〇分～特別講座「半世紀を経た水俣病の今」花田昌宣／一三時三〇分～開会行事／一四時～「吉田文治と『特殊部落』千年史」水俣運動を支えた出版人の生涯／白石正明／「聞き書き日田郡水平社」溝口千寿
- ②二七日(土)九時～「全九州水平社創立九〇周年に学ぶ」竹永茂美／「熊本県水平社群像」花田昌宣／「まとめ」阿南重幸

○第二二回宗像地区「同和」教育研究集会

- ▽日時 二〇一三年九月一日一〇時～一五時
- ▽会場 福津市中央公民館
- ▽参加費 五〇〇円
- ▽主催・問合せ 宗像地区「同和」教育研究集会実行委員会
- ▽内容 全体会「共に生きるということ」しようがい者差別について考えるー江藤経史さん／分科会「がいじ」発言に対するとりくみー授業づくりを通してー松岡洋子さん／「今取り組める部落問題学習の考え方と具体的授業」教科書から「土農工商」が消えたー加来康宣さん

〇二〇一三年度 部落史講座

▽日時 二〇一三年八月一〇日(土) 一〇時〜一七時
福岡県部落解放センター四階大会議室

▽会場 (住所) 博多区千代一―二九―一二
(交通) 地下鉄「千代県庁口」から徒歩八分
JR「吉塚駅」から徒歩七分

▽内容 一部 一〇時〜 石瀬豊美さん

「生きることが闘いだっただった! 水平社以前・

黎明期の解放運動―解放令、筑前竹槍一揆、
復権同盟、九州平民会、鎮西公明会―

二部 一三時〜 駒井忠之さん

「海外からみた水平社宣言」

三部 一五時〜 廣畑研二さん

「水平社創立の舞台裏―日本社会主義同盟―」

▽テキスト代 一八〇〇円(研究所会員一五〇〇円、学生五〇〇円)

▽主催・申込み (公社) 福岡県人権研究所

〇 海外人権スタディツアー ソウル

▽日程 二〇一三年八月二九日(木)〜三一日(土)

▽訪問地 韓国・ソウルとその周辺

(安養市民大学、国家人権委員会、ソウルグロー
バルセンター、戦争と女性の人権博物館、他)

▽旅費・行程 (別紙参照)

▽主催 トップツアー(株) 電話〇九二七三九〇〇一〇

▽申込み・問合せ トップツアー(株)

または(公社) 福岡県人権研究所

電話〇九二六四五〇三八八

研/究/所/日/誌/か/ら (2013.4.21~6.20)

4月22(月) 事務局会

26(金) 『全九州水平社研究論集』(仮) 企画会議(熊本) 県隣協通常総会(理事長挨拶/嘉麻市)

28(日) 執行理事会(13:30) 理事会(15:10/クローバープラザ)

30(火) 林力さん聞き取りプロジェクト

5月03(金) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

04(土) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

05(日) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

06(月) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

07(火) 事務局会

13(月) 事務局会

15(水) 福岡県人権・同和教育研究協議会定期総会(古賀市/所長登壇)

16(木) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

19(日) 第1回通常総会、記念講演(阿久澤麻理子さん)

「公益社団法人」移行記念のつどい(ホテルレガロ福岡)

24(金) 第28回松本・井元研究会

27(月) 事務局会

28(火) 歴史学習プロジェクト

29(水) 『全九州水平社創立90周年誌』発行

30(木) 第33回人権社会確立全九州研究集会 1日目

31(金) 同上 2日目 九州部落史研究会打合せ

6月03(月) 事務局会

07(金) 『全九州水平社創立90周年誌』作成委員会

08(土) 第173回定例研究会(企画/外国人部会、ジェンダー部会/クローバープラザ)

10(月) 事務局会

17(月) 事務局会

(※住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談等の業務については省略しています。)

